

円山拓子『韓国語 cita と北海道方言ラサルと日本語ラレルの研究』（ひつじ書房、2016年）

本の概要：

本書は、多義語がただ単に複数の意味を持つのではなく、文法的・意味的なメカニズムが働き、体系としての意味ネットワークが形成されていることを精緻化して提示するものである。韓国語の助動詞 cita は多くの機能を持つにもかかわらず、生産性の高い助動詞として使われており、通時的に見ると新しい用法を次々と獲得している。第1部ではこのような cita の多義性を支えるメカニズムとはどのようなものか、複数の側面から分析をおこなった。そして、cita の多義性はスキーマ的意味と文法的特徴の相互作用によって支えられていることを論じた。

第2部では、韓国語 cita ・北海道方言ラサル ・日本語ラレルの対照分析をおこなった。これらの共通点と相違点を整理し、意味地図の形で表すことにより、各形式の意味の全体像を捉え、意味変化の傾向や形式間の影響関係について論じた。

著者略歴：

1973年生まれ、2009年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。国立国語研究所プロジェクト研究員（2010～13年）、東京大学大学院総合文化研究科学術研究員（2010～15年）、北海道大学および藤女子大学講師。主要な業績は『韓国語助動詞 cita の多義性—用法間の相互関係と意味拡張—』（東京大学博士学位論文、2009年）、「비의도와 가 능의 대조연구 -일본어 ‘られる’, 홋카이도 방언 ‘らさる’, 한국어 ‘지다’」（오고시 나오키 외 편『일본의 한국어학 -문법·사회·역사』삼경문화사, 2015年）、「韓国語の語彙的自他交替：接辞-i/hi/li/ki-による派生の双方向性（プラシヤント・パルデシ他編『有対動詞の通言語的研究』くろしお出版、2015年）など。

[関連 URL] <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-811-6.html>